

2024年4月～7月

科学者講座



受講のご案内

講座のねらい・内容

本講座では、普段の生活の中で感じられる自然や社会のしくみをテーマに、その現象や背景に目を向けていきます。そのとき、自分自身の内側に生まれるさまざまな「なぜ?」。このさまざまな「なぜ?」がもとになって、「もしかして、……かもしれない」が生まれます。これこそ、「未知と出会ったときに、どのように働きかけていくか」という“科学的マインド(考え方)”。**観察する。仮説を立てる。調査する。検証する。**科学者のマインドを携えた子ども達は、この先の系統学習で、新しい知識と出会っても、鵜呑みしない。受け身にならない。「これって、前のあれと関係あるかも?」。自分でつながりを見つけたり、自分で問いをつくったり、他者とわかり合えるつながりをつくったり。**能動的に働きかけていくことができるようになります。**

プログラム

教科の枠を超えて「?」と出会う(科学者講座)の年間プログラム

回	テーマ	回	テーマ
1・2	お米がつくるつながりをさぐる	11・12	はかるってどういうこと?
3・4	くらべてみよう	13・14	今日は何の日?
5・6	人のくらしと水のかかわりを考えよう	15・16	図から読み取る・図で伝える
7・8	なかまわけをしてみよう	17・18	行き方いろいろ
9・10	くらしの変化とごみの関係を考えよう	19・20	ものの見方を変えてみよう



実施要項

【授業日】 毎週土曜日 全20回 14:00～15:10 (70分×1コマ)

回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回
授業日	終了						4/6	4/13	4/20	4/27
回数	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回
授業日	5/11	5/18	5/25	6/1	6/8	6/15	6/22	6/29	7/6	7/13

【会費(税込)】 5,720円/1ヵ月あたり (弟妹割引価格 2,860円/月)

※科学者講座のみ受講の場合は、マイファーストテストの受験は必要ありません。

2024年4月～2024年7月		
授業料	月々1教科5,720円	
教材費	国算 予科教室のみ受講	14,740円
	科学者講座のみ受講	9,900円
	国算 予科教室・科学者講座ともに受講	17,160円
マイファーストテスト	13,200円(4回分)	
入会金	11,000円	

※上記金額には消費税を含みます。

申込要項

- 下記の申込書に必要事項をご記入のうえ、新中野校にご提出・FAXいただくか、下記申込書右側に記載の二次元コードを読み取り、必要事項をご記入の上、新中野校までメールでお申込みください。
- お申し込みは申込順に受け付けます。定員になり次第締め切りとさせていただきます。

日能研新中野校 ☎03 (6304) 8200 FAX03 (6304) 8201 メール shin-nakano@nichinoken.co.jp

キリトリセン

2024年 新3年生 **【科学者講座】 申込書**

日能研番号	A P A 3	【申込内容】 3年生科学者講座
生徒氏名		



～テキスト内容紹介～

「科学者講座」の目的は、「科学的なものの見方」を育むことにあります。「科学的なものの見方」の対象は、「社会科学」という言葉があるように、教科で言うところの「理科」＝「自然科学」だけに限定されません。

科学者講座のテキストには、子どもたちの「？」を引き出すような身近な素材がふんだんに盛り込まれています。そして、子どもたちの知的好奇心を刺激して「考えるっておもしろい!」「もっと続けたい!」という気持ちにさせ、能動的に学ぶ姿勢を作っていきます。自分から主体的に調べたり、考えたりする経験は、数年後、入試を迎えるときに必ず大きな力になります。

～図から読み取る・図で伝える～ 第15回 図と写真をくらべてみよう 第16回 地図で伝えてみよう

～まちについてわかること～
下の写真は、あるまちのようすを空から写真でとったものです。



豊富な写真や図版は、子どもたちの想像力をかきたてます!

下の図は、14ページの写真と同じ場所を地図で表しています。



地図から、どんなことがわかるでしょうか。わかることを書いてみましょう。

◎ほかの友だちはどんなことを書いていましたか。あれば、書いておきましょう。

◎ほかの友だちはどんなことを書いていましたか。あれば、書いておきましょう。

「考える」ための素材（知識やデータといった資料）は、テキストの中に与えられています。このため子どもたちは、観察したり、推論したりといった「考える」ことに専念できます!

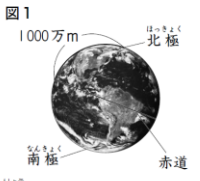
この回では「図は目的によって使い分ける」ことを体感的に学びます。4年生からはじまる本科教室[理科]の授業では、毎回のように図をかきますので、その際の理解度が変わってきます!

自分の思ったこと、考えたことを表現します。「科学者講座」を受けた子どもは、とにかく「書く力」がちがいます!

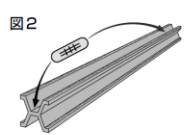
第12回 単位を作ろう コラム

コラム [長さの単位「m(メートル)」ってどうやって決まったのだろう?]

今から200年くらい前のフランスで、m(メートル)が最初に決められました。そのとき基準に使われたのは、地球の大きさでした。「北極から赤道までの子午線の1,000万分の1の長さ」を1mとしたのです。そういわれてもピンときませんよね。ですから、1mの長さを目で見てわかるようにするために「メートル原器」が作られました。「メートル原器」とは、全長102cm(センチメートル)で、断面がX字型の金属のぼうです。向はしのへこんだところ(図2の矢印)に、図のような印がついています。3本の線のうち、まん中の線が1mのはしになります。



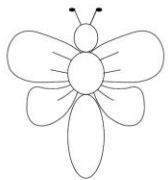
しかし、この「メートル原器」は金属でできていたため、こわれたり、形が変化したりして、1mを正確に表せないという問題がありました。そこで、現在では「1mは、1秒の約3億分の1の時間に光が真空中を伝わる長さとする」と決められています。




「コラム」では、子どもたちの知的好奇心をくすぐり、「学びの世界」はさらに広がります!

コラム もしき図


右の図を見てみましょう。2ページの図と写真はちがいが、アゲハチョウの羽の形や、もようなどをこの図から読み取ることができます。しかし、この図は、2ページの図と同じ、アゲハチョウを表す図です。アゲハチョウの足や羽の数、生えている部分など、体のつくりを表すために、必要なことだけをのせて、アゲハチョウを表しています。このような図を、「もしき図」といいます。もしき図から、アゲハチョウの大まかな体のつくりを知ることができます。また、もしき図を使って、アゲハチョウとそれ以外のこの虫の体のつくりをくらべてみると、この虫の体のつくりの同じところを知ることができたり、アゲハチョウとこの虫以外の虫の体のつくりをくらべてみると、この虫とこの虫以外の虫の体のつくりのちがいを知ることができます。たとえば、もしき図を使って、アゲハチョウと同じこの虫である働きアリをくらべてみましょう。アゲハチョウと同じように、働きアリをもしき図で表すと、下の図のようになります。また、この虫以外の虫であるクモも同じようにもしき図で表すと、下の図のようになります。アゲハチョウと働きアリの同じところには、どんなことがあるでしょうか。アゲハチョウとクモのちがうところには、どんなことがあるでしょうか。



▲アゲハチョウのもしき図



▲働きアリのもしき図



▲クモのもしき図

このように、同じアゲハチョウを表す場合でも、目的によって、さまざまな図を使い分けることができます。

「勉強＝知識を詰め込む」ではありません! 「知らないから、習ってないから、できない」では、最近の入試では通用しません。『科学者講座』では、たくさんの素材に触れませんが、素材の内容を知識として覚え込むことはせず、「知識のとらえ方」や、「考え方」を1年間かけてじっくり学んでいきます。科学者講座を受講すると、自ら考え、書く力が育ち、4年生以降の系統学習への土台づくりができます。